

箱根ジオパーク 全49サイト

H1 大涌谷 おおわくだに

噴気が立ち上る光景から「大地獄」と呼ばれていましたが、1873年の天皇行幸を機に「大涌谷」と改名しました。大涌谷は約 3000 年前に中央火口丘の神山の北側斜面が崩れてできました。その後、火山活動が再びおこり冠ヶ岳が誕生しました。噴気の周辺には独特の植物群落が見られます。またこの噴気を利用して温泉が造成されています。

H2 早雲山と大涌沢 そうぜんざんとおおわくだに

早雲山と大涌沢は噴気地帯が崩れてできた地形です。1910 年に大涌沢が大規模に崩れて、大量の土石が下流の塔ノ沢などを襲い、6 名が亡くなりました。1953 年には早雲山周辺が大規模に崩れて、下流にあった道を大規模に崩れ、13 名が亡くなりました。現在この地域は神奈川県による大規模な砂防工事が進められています。

H3 神山と流れ山 かみやまとな流れやま

中央火口丘の神山の北側斜面は、約 3000 年前に大きく崩れて大涌谷が誕生しました。崩れた際の大量の土砂は岩屑なだれとなって斜面を流れ下り、その土砂の一部が早川をせき止め現在の芦ノ湖が形成されました。土砂が堆積した姥子周辺には、山体の巨大な破片である船見岩や金太郎岩などの「流れ山」の地形が見られます。

H4 駒ヶ岳 こまがたけ

中央火口丘の駒ヶ岳の山麓ではハコネメツツジなどの風衝岩場の植物が見られます。山麓は緑に覆われていますが、地形をよく観察すると溶岩がいく筋も見え、この山が度重なる噴火でできたことがわかります。山頂付近には「馬降石」などの降臨伝説に基づく祭祀遺跡が点在しており、古くから信仰を集めていたことが伺えます。

H5 仙石原湿原 せんこくはらしづげん

箱根カルデラの中には、かつては仙石原湖と呼ばれる湖がありました。約 2.2 万年前の神山の噴火により湖が 2 つに分断され、仙石原側が湿原化して現在の姿となりました。箱根湿生花園では、湿原に生育する植物を観察することができます。仙石原の名の由来は、源頼朝が「この地を拓けば千石ほどの米が穫れよう」と言ったことにあります。

H6 関所と石畳 せきしよとしいたみ

箱根関所は、東海道きつての要所である箱根山中に設けられ重要視されました。関所は芦ノ湖の南東部に突き出た塔ヶ島と屏風山に挟まれた場所に位置します。ここには 1930 年に起きた北伊豆地震の震源断層である丹那断層の延長にあたる箱根町断層と呼ばれる断層があり、中央火口丘の形成と密接に関連すると考えられています。

H7 芦ノ湖 あしこ

芦ノ湖が現在の姿になったのは、約 3000 年前と考えられています。湖の西側は箱根外輪山の内側のカルデラをつくる急峻な地形が、東側には神山や駒ヶ岳の溶岩流の地形が見られます。湖に棲む九頭竜を、箱根権現を開いた万巻上人が鎮めたと伝えられています。それ以後、芦ノ湖は箱根神社の御手洗池として利用されてきました。

H8 長尾峠 ながおとげ

箱根外輪山を貫くトンネル出口付近からは、正面に神山と冠ヶ岳が見えます。神山の麓から手前のゴルフ場にかけて見られるハマグリを伏せたような地形は、約 3000 年前の神山の崩壊でできたものです。長尾峠から県道を東に向かうと、溶岩流がカルデラ内側に向かって流れている崖があります。箱根火山の形成史の見しるのきっかけとなった崖です。

Hakone Geopark

H9 金時山 きんときやま

35 ～ 27 万年前に活動した成層火山です。当初はもっと巨大な火山でしたが、南側が崩れたことによって現在の姿になりました。それでも箱根外輪山の最高峰です。登山道では火山の断面を、山頂付近では風衝岩場の植物を見ることができま。金太郎のゆかりの地で、「宿り石」や「手鞠石」などの金太郎伝説にもつわる巨岩が点在しています。

H10 大観山 たいかんざん

アネスト岩田ターンバイク箱根の終点、箱根外輪山の南東に位置する絶景ポイントです。北側の展望台からは山伏峠や三国山などの箱根外輪山、カルデラ内の芦ノ湖や中央火口丘の駒ヶ岳、二子山、屏風山を一望のものに見渡すことができます。南側の展望台からは、伊豆の天城山、大室山、伊豆七島の大島、神津島などを見ることができま。

H11 須雲川 すくがわ

須雲川バス停より上流側の川沿いでは、約 25 万年前にマグマが地下深くから岩盤を割りながら上昇してきたためにできた、たくさん「の岩脈」を見ることができます。岩脈の幅は平均 2.9m 程度で、215 枚が確認されていることから、当時岩脈の貫入によりこの地が北東－南西方向に約 650m も広がったことを物語っています。

H12 玉簾の滝 たまだれのたき

箱根湯本温泉の天成園の数地内にある、高さ約 8m・幅約 11m の滝です。水を通しにくい箱根火山ができる前の古い地層の上に、水を通しやす箱根火山の溶岩が重なっていて、2 つの地層の間から流れ出た水が滝となっています。流れ落ちる清水が「たますだれ」のように細かく美しいことからこの名で呼ばれるようになりました。

H13 元箱根石仏群 もとはこねせきぶぐん

国道1号線の芦之湯の近くにある精進池周辺は、各所に噴気が立ち上る荒涼たる風景から地獄と恐れられていました。それ故この周辺には地蔵信仰に基づく石仏や石塔が数多く建てられ祀られました。石仏や石塔は鎌倉時代に、周辺にある溶岩を削って造ったもので、これ以降の鎌倉時代にはこの地を拓けば千石ほどの米が穫れよう」と言ったことにあります。

H14 箱根神社 はこねじんじや

箱根は複雑かつ険しい山岳地帯のため、人々は畏怖の念から山々を神聖視し、信仰するようになりました。やがて山岳修行僧の活動する場となり、奈良時代になってその一人である萬巻上人によって創建されたのが元箱根の地にある箱根神社です。石橋山の戦いで敗れた源頼朝を箱根神社がかくまったことで武家の信仰を集め勢力を拡大したとされています。

H15 飛龍の滝と柱状節理 ひりゅうのたきとちゅうじょうせつり

上段15m・下段25mと2段に分かれて流れ落ちる神奈川県内で最大規模の滝。龍が飛翔するかのうな形からこの名前がつきました。鎌倉時代には箱根権現信仰の行者が鎌倉街道を進む途中で、この滝に打たれて身を清めたと言われています。滝を構成する溶岩は約12万年前に噴出した安山岩です。畑倉からの自然探歩道沿いには、溶岩が冷えて固まる際にできる規則的な割目目である柱状節理が見られます。

H16 堂ヶ島 どうがしま

箱根宮ノ下付近の早川がつくる急峻な渓谷の谷底に位置し、箱根火山ができるはるか前の約 400 万年前に海でできた地層が現れています。この地層からは温泉が湧きだしており、箱根七湯のひとつに数えられています。室町時代の高僧・夢窓国師が閑居したという「山居山」が伝わり（現在は場所を移転）、歴史の古さを物語っています。

記号 地質 箱根火山とその周辺の地質を楽しむ

H17 蛇骨渓谷 じゃこつげいこく

蛇骨渓谷は箱根宮ノ下の西に位置し、ナトリウム－塩化物泉の底倉温泉が湧いています。「蛇骨」の名前の由来は温泉に含まれるケイ素が沈着してできた珪華が白くたまり、蛇の骨のように見えることにあります。この湧泉群のひとつに、1590 年に豊臣秀吉が小田原攻めの最中に家臣をつれて入ったと伝えられる「太閤の石風呂」があります。

H18 白石地蔵と福祉旅館外壁 しろいしじょうとふくしきりやうがいへき

箱根湯本の谷底には、箱根火山ができるはるか前の約 400 万年前に海でできた地層が現れています。この地層をつづっている石は軽石が大量に含まれているため、全般的に白く、柔らかく、加工しやすいのが特徴です。この地層を彫って造られた磨崖仏が湯本駅の裏にある白石地蔵です。この地層から採取された石は福祉旅館の外壁に使われています。

H19 北条氏城郭ネットワーク ほうじょうしじょうかく

戦国大名北条氏は西方からの脅威に対し、天然の要害でもある箱根山中に、山城中(三島市)、足柄城(南足柄市)、鷹ノ巣城(箱根町・現在所在不明)の3城を築城しました。このほかにも塔ノ峰城や湯坂城・御所山砦・根府川砦など、小さな城や砦を交通路に沿うように配しており、城郭のネットワークを構築していました。

H20 箱根温泉 はこねおんせん

箱根温泉の歴史は古く、特に湯本温泉は奈良時代の開湯と伝えられています。江戸時代の初期には七つの温泉場が確認され、箱根七湯（はこねななゆ）と総称されていました。明治時代以降は温泉技術の発達とともに開発が進み、現在では箱根二十湯となりました。箱根温泉は泉質が豊富で「温泉のデパート」とも呼ばれています。※数え方はいくつかあります

H21 千条の滝 ちすじのたき

蛇骨渓谷の上流部である小涌谷には、水が千の糸となって流れ落ちるように見えることから千条の滝と呼ばれる滝があります。幅 20m・高さ 3m 程の滝で、苔むした岩肌をよく観察すると、角の取れた大小様々なレキから構成されています。この地層は約 4 万年前に神山が崩れた時に流れってきた堆積物と考えられています。

01 早川石丁場群 はやかわいしちやうばぐん

江戸時代のはじめ、小田原から伊豆半島にかけて、江戸城に使う石を切り出すための石丁場が無数に設けられました。小田原市入生田の南にある早川石丁場群もそのひとつです。箱根外輪山の急峻な斜面に埋もれた元箱根の巨レキを掘り出し、切り出し、整形、運搬と言った一連の作業工程が遺跡として残されています。加工された石は約 1×1×3(m) もあります。

02 小田原城と小田原用水 おたわらじょうと おたわらいうすい

小田原城は、15 世紀のはじめ頃に大森氏によって築かれ、その後伊勢宗瑞(北条早雲)以後、5 代、約 100 年にわたって北条氏の本城（本拠となる城）でした。当時の城は関東ローマ層を掘りぬいた岩壁と土塁を中心に構成されていました。江戸時代を迎えると、小田原城は箱根火山の安山岩で築かれた石垣を備える近世の城郭として生まれ変わりました。

小田原用水は箱根板橋の取水口から早川の水を小田原城下に引いた用水で、戦国時代の終わり頃には既に存在していたことが判明しています。用水のルートは小田原市内の沖積低地の自然の勾配を巧みに利用したものと推定されます。小田原用水は現在も小田原城のお堀に流れ込んでいます。

地形 箱根火山とその周辺の地形を楽しむ

03 石垣山一夜城 いしがきやまいちやうじやう

1590 年、小田原城に立て籠もる北条氏を攻めるため、小田原城から約 3km 南西の箱根外輪山の尾根上に豊臣秀吉が築いた総石垣の城で、国の指定史跡となっています。石垣は矢穴を用いず荒割りした溶岩を用いた野面積みです。石垣山一夜城からは、足柄平野から大磯丘陵、その地形に位置する国府津－松田断層の境界が一望できます。

04 根府川(片浦海岸) ねふかわ(かたうらかいがん)

根府川周辺では、大正関東地震の際の駅舎の斜面の地滑りやその南を流れる白糸川で起きた岩屑なだれなど震災の被害が伝えられており、駅舎横の慰霊碑や近くにある釈迦堂で当時をしるふことができます。根府川から早川に至るルートでは、石橋山の古戦場や佐奈田霊社など、源頼朝に関連する史跡を見ることができま。

05 荻窪用水 おぎくぼいうすい

江戸時代後期に小田原藩によって工事が行われた用水で、箱根町湯本の取水口から小田原市荻窪まで全長が 10.3km あります。童謡「めだか」の学校のモデルにもなった用水です。用水の一部には、風景周辺で採掘された箱根火山起源の火砕流が溶結してできた石材を利用しています。2011 年に土木学会選奨土木遺産に選ばれました。

06 羽根尾貝塚 はねおひづか

大磯丘陵の南西部にある羽根尾貝塚は縄文時代前期、約 5500 年前に形成された貝塚です。貝塚が立地する中村川周辺の低地帯は、約 9000 ～ 6000 年前まで古中村湾と呼ばれる海で、その後の大地の活動によって、現在の高さまで隆起しました。遺跡は造成により消滅しましたが、出土遺物の一部が小田原市郷土文化館と箱タウンセンターでゆるぎで展示されています。

07 六本松跡 ろっぽんまつあと

大磯丘陵の西端に位置するこの場所は中村荘と曾我荘を結ぶが、大山山頂の道として中世の主要交通路でした。源頼朝が源義経追討のため軍勢を率い京にのぼる際に通ったとされること、「曾我物語」では曾我十郎と大磯の遊女虎御前との別れの場としても知られています。箱根火山の全貌や清句川が形成した足柄平野を眺望するにも良い場所です。

M1 魚付き林と漁礁 おづつきりんとう ぎましやう

真鶴半島は約 15 万年前の火山の噴火によってできました。魚付き林のあるお杉は真鶴半島先端部に位置し、クロマツやスノキの巨木、シイ・タブに代表される照葉樹林が見られ、神奈川県天然記念物に指定されています。照葉樹林は緑陰を提供して魚付き林としての役割を果たし、岩礁海岸に豊かな生物相を育てています。

M2 三ツ石海岸 みついしかいがん

真鶴半島の先端の沖合に、三つの巨大な岩が突き出ているのが特徴的な地形です。この付近の海岸は、約 15 万年前に噴出した溶岩によってつくられたものです。周辺の磯には、神奈川県天然記念物のウメボシイソギンチャクやサンゴイソギンチャクなどが生息し、干潮時には貝類・エビ・コナ・魚類など様々な生物相を観察することができます。

M3 岩地区(真鶴) いわちく(まなづる)

真鶴駅の北東に位置する岩地区では、約 22 ～ 18 万年前に活発な火山活動があり、その痕跡は如来寺跡の境内洞窟の内部で間近に見ることができま。この地区には石工が多く住み、民家の石垣などに加工を施した石材を見ることができま。岩地区の南側の平台は約 18 ～ 17 万年前に噴出した溶岩がつくる台地で、海岸で採取された石は約 1×1×3(m) もあります。

生物 様々な動植物を観察しよう

M4 貴船神社 きふねじんじや

真鶴港の南にある貴船神社は、元は貴宮(きのみや)大明神と称し、浜に漂着した船中の古仙像を安置したのが創始と伝えられています。毎年7月 27・28 日に海上の安全を祈念して行われる貴船祭は、国の重要無形民俗文化財に指定されています。境内は本小松石を使用した石造物が多数あり、石材加工や利用を観察するには良い場所となっています。

M5 しとどの窟(真鶴) しとどのいわや(まなづる)

真鶴港の近くにある、源頼朝ゆかりの史跡です。1180 年、石橋山合戦で平家に敗れた源頼朝が箱根山中をさまよった後、この地にあった窟(いわや)に身を隠し、安房国より脱出したと伝えられています。窟自体は波による侵食によってできた海食洞で、大正関東地震による隆起によって、現在の高度となりました。

M6 真鶴半島採石場跡 まなづるはんとうさいせきじやうあと

箱根外輪山の一部である真鶴半島は良質の安山岩の産地として知られ、鎌倉時代から採石の記録が残されています。江戸時代には江戸城築城のため多数の石材が採掘され、半島の海岸沿いの各所に石を切り出す際にあけられた矢穴の跡が残されています。石材は真鶴半島側のものが新小松石、内陸山側のものが本小松石と呼ばれ商品化されています。

Y1 幕山 まくやま

幕山は約 15 万年前の噴火でできた箱根外輪山の火山で、当時は火砕流を伴う噴火が起きたとも考えられています。幕山の斜面には、溶岩が冷えて固まる際にできた柱状節理が発達しており、間近で見ることも可能です。2 月から 3 月にかけて、幕山の斜面に紅梅と白梅が咲き散れる「梅の宴」が開催されます。標高 626m からの相模湾の展望も見ものです。

Y2 南郷山 なんこうざん

箱根外輪山の南麓に位置する約 15 万年前に噴出した火山です。南郷山の山頂からは、真鶴半島をはじめ伊豆諸島まで一望することができます。この南郷山の山麓には源頼朝が石橋山の戦いに負け、この山中をさまよい、水面に映った己の姿に失望し、自害を決意したところ、土肥実平にいめられたと言われる自鑿水(自害水)と呼ばれる池があります。

Y3 しとどの窟(湯河原) しとどのいわや(ゆわら)

湯河原町の城山の北西にある源頼朝ゆかりの史跡です。1180 年に石橋山合戦で平家に敗れた源頼朝がこの地にあった窟(いわや)に身を隠し、箱根権現別当のものと迷った後、真鶴のしとどの窟から安房国へ脱出したと伝えられています。しとどの窟周辺は箱根火山の溶岩と火山砕屑物からできており、窟は火山砕屑物の部分が割れてできた洞です。

Y4 城願寺 じやうがんじ

城願寺は鎌倉幕府開設の源頼朝を助けた土肥実平他土肥一族の菩提寺です。一カ所ずつ各種の墓型が揃って見られ、神奈川県指定文化財になっています。寺はその昔密教の寺院が土肥一族の持仏堂になり、臨済宗を経て曹洞宗の寺院になった歴史があります。境内には樹齢 800 年を超えるビャクランがあり、国の天然記念物に指定されています。

Y5 不動滝 ふどうたき

湯河原町奥湯河原にある落差 15m の滝です。滝をつくる崖は、湯河原火山をつくる約 40 ～ 25 万年前に噴出した溶岩や凝灰岩などでできています。滝周辺の岩石には、沸石と呼ばれる白色の鉱物が見られます。この場所で発見された沸石は、湯河原側の平台は約 18 万年前に噴出した溶岩がつくる台地で、海岸で採取された石は約 1×1×3(m) もあります。

Y6 湯河原温泉 ゆがわおんせん

藤木川及び千歳川沿いに湧出する温泉です。万葉集に「あしかりのとひのかふちにいづるゆの」と詠まれたこの湯河原温泉と伝えられ、歴史の古さを物語ります。温泉の効能からは常に高い評価を得、江戸時代の温泉番付では東の小結に、日露戦争の頃には陸軍の療養所に指定されました。また、山間の静かな温泉として多くの文人墨客にも愛されています。

Y7 福浦カツラゴ海岸 ふくうらかつらごかいがん

真鶴半島をつくる約 15 万前に噴出した真鶴岬溶岩と、その下に堆積していた関東ローマ層の下部である多摩ローマ層との接触部分を見ることができるところです。接触部分では、火山岩塊状溶岩や、溶岩の熱で赤く酸化された火山灰層が見られます。付近の海中には天然記念物のサンゴイソギンチャクが群生しています。

M11 足柄峠と足柄道(矢倉沢往還) しぶりとうげとあしはら(やくらざへ往還)

足柄峠を通る足柄道は、箱根を通る東海道よりも歴史が古く、古事記や万葉集にも足柄の地名が残ります。西暦 800 年の富士山の延暦噴火の際には足柄峠が通行不能となり、迂回路として箱根峠が整備され、江戸時代に東海道が整備されると、一部は矢倉沢往還として利用されました。現在は、足柄古道として保存、紹介されています。

M2 矢倉岳 やくらたけ

矢倉岳は、約115万年前に足柄層へ貫入したマグマが地下深くで冷え固まった深成岩体。その後プレートの圧力により標高870mまで隆起した。世界的にも極めて新しい岩体で、石英閃緑岩がなりまします。その特徴的な形状が、足柄峠を見張る櫓のようであることがその名の由来と言われ、足柄道におけるランドマークとしても機能していたと考えられています。

Mi3 夕日の滝 ゆひひのたき

断層の活動により箱根火山堆積物と足柄層が接し、箱根外輪山を水源とする内川が、下流の軟質な足柄層群を侵食してこの滝を形成しました。また付近の露頭ではほぼ垂直になった足柄層を観察でき、大地の変動を体感することができま。す。なお、この地域には金太郎伝説が残り、「金太郎の遊び石」と呼ばれる金時山起源の凝灰岩質の巨岩もあります。

Mi4 蛤沢周辺 はまぐりさわしゅうへん

かつては南方の火山島だった伊豆地塊が、フリリブ海プレートの運動により本州に近づき、約70万年前に本州と衝突しました。その際に陸地化した足柄層群の中からは、ハマグリなどの化石が見つかり、この地域には蛤沢という地名が残ります。市天然記念物に指定され、現在では南足柄市郷土資料館や地蔵堂地区の展示施設で化石標本を展示しています。

Mi5 文命堤 ふんめいつみ

酒匂川はかつて暴れ川と呼ばれ、江戸時代に幕府の命を受けた田中丘陵により文命堤が整備されてきています。参道や境内には樹齢500年以上の杉の巨木が見られ、杉林は県天然記念物に指定されています。参道に並ぶ二十八宿の石灯籠は、小田原南石町の講中から寄進され、箱根火山起源の石材が使用されています。

Mi6 最乗寺と杉林 さいじやうじとすぎばやし

箱根外輪山の裾野に建ち600年以上の歴史を持つ曹洞宗の古刹です。その門前町であったことが、南足柄市の発展の基礎となっています。参道や境内には樹齢500年以上の杉の巨木が見られ、杉林は県天然記念物に指定されています。参道に並ぶ二十八宿の石灯籠は、小田原など各地の講中から寄進され、箱根火山起源の石材が使用されています。

Mi7 清左衛門地獄池 せいざえもんじごくけい

箱根外輪山を水源として、1日に1万3千もの湧水量を持ちま。江戸時代に湧き出したという伝説がありますが、近くには縄文時代の遺跡があることから、古くから人々が生活していたと考えられます。この水資源を利用しフィルム工場が進出したことから、南足柄市は水大国に発展しました。現在は平成の名水百選に選定され、地域住民の手で保全されています。

Mi8 御嶽神社と矢佐芝石丁場 おんたけじんじやとやさしばしじやうば

平安時代、箱根外輪山の一つである明神ヶ岳の麓に建立され、三竹という地名ができたと言われます。石段の近くにそびえる鳥居杉は、市天然記念物、周辺の社叢林は、県天然記念物に指定されています。参拝用の石段は、箱根火山起源の凝灰岩である久野石（かま石）が使われ、周辺には江戸城などの石垣に使うために石を切り出した石丁場が点在します。

拠点施設 ※休館日は各拠点施設へお問い合わせ下さい

Pf1 箱根ジオミュージアム

足柄下郡箱根町仙石原 1251（大涌谷くろたまご館 1F）
電話 0460-83-8140（ハイ！ジオ）
http://www.hakone-geomuseum.jp/
開館時間 9：00 ～ 16：00

Pf2 小田原市郷土文化館

小田原市城内 7-8
電話 0465-23-1377
http://www.city.odawara.kanagawa.jp/public/facilities/kyodo/
開館時間 9：00 ～ 17：00

Pf3 箱根町立郷土資料館

足柄下郡箱根町湯本 266
電話 0460-85-7601
開館時間 9：00 ～ 16：30（入館は 16：00 まで）

Pf4 箱根関所・箱根関所資料館

足柄下郡箱根町箱根 1 電話 0460-83-6635
http://www.hakoneekisy.jp/
開館時間 9：00～17：00（入館は 16：30 まで）
冬季(12月1日～2月末日)は9：00～16：30(入館は16：00まで)

Pf5 箱根町立森のふれあい館

足柄下郡箱根町箱根 381-4
電話 0460-83-6006
http://www.hakone.or.jp/monifure/
開館時間 9：00～17：00（入館は 16：30 まで）
冬季(12月1日～2月末日)は9：00～16：30(入館は16：00まで)

Pf6 箱根ビジターセンター

足柄下郡箱根町元箱根 164
電話 0460-84-9981
http://hakonevc.sunnyday.jp/
開館時間 9：00 ～ 17：00（入館は 16：30 まで）

Pf7 箱根町立箱根湿生花園

足柄下郡箱根町仙石原 817
電話 0460-84-7293
http://hakonekanko.com/
開園時間 9：00 ～ 17：00（入園は 16：30 まで）
12月1日～3月19日は冬休休園

Pf8 真鶴町立遠藤貝類博物館

足柄下郡真鶴町真鶴 1175-1
電話 0465-69-1111
http://www.endo-shellmuseum.jp/
開館時間 9：30 ～ 16：30（入館は 16：00 まで）

Pf9 湯河原町立図書館

足柄下郡湯河原町土肥 1-4-13
電話 0465-63-4155
https://www.town.yugawara.kanagawa.jp/kyoiku/library/
開館時間 9：30 ～ 18：00
図書資料の所蔵

PH10 南足柄市郷土資料館

南足柄市広町 1544
電話 0465-73-4570
開館時間 9：00 ～ 16：30

Pf11 神奈川県立生命の星・地球博物館

小田原市入生田 499
電話 0465-21-1515
http://rnh.kanagawa-museum.jp/
開館時間 9：00 ～ 16：30（入館は 16：00 まで）

PH12 神奈川県温泉地学研究所

小田原市入生田 586
電話 0465-23-3588
https://www.onken.odawara.kanagawa.jp/